



- ***** 行 事 案 内 *****
- 催し物展**
- 夏休み学習展
 - 7月8日(土)～8月27日(日)
 - 自由研究相談日 7月28日(金)
 - 8月18日(金)
 - 「生態学」講座**
 - 水辺の生態学 — カブトエビなど
 - 7月8日(土)
 - 演習 — 偽高山帯の動植物 一月山一
 - 8月1・2日(火・水)
 - 「自然と人間」講座**
 - 出羽の民家 7月21日(金)
 - 化石が語る山形の歴史 8月25日(金)
 - 自然と郷土学習教室**
 - 川西町 7月26日(水)
 - 舟形町 7月26日(水)
 - 大石田町 8月11日(金)
 - 巡回展 葉草展**
 - 温海町温海公民館
 - 8月25日(金)～27日(日)
- *****

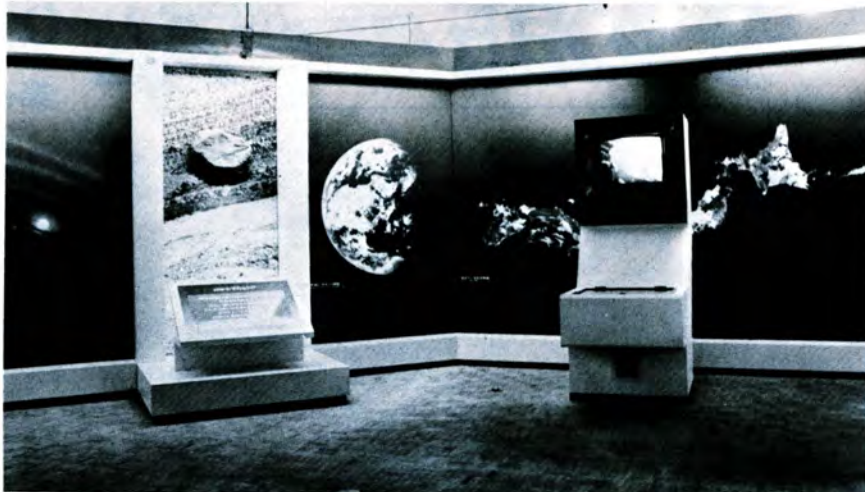
自然部門展示 新装オープン

待望久しい自然部門の新しい展示が公開できるはこびとなりました。真に山形の自然を語るのにふさわしい、内容の多い展示で、これからの山形の自然史研究に、測り知れない役割を果しうると自負しております。

新しい展示は、地学と生物から成り立っています。地学では、山形のなりたちを主テーマに展開しています。ここでは、私たちの住んでいる県土が、どのような地史的な変化をへて現在にいたったかを、興味深く理解できます。生物では、自然のしくみと、環境と生物とのつながりやかんけいをベースに、多様な山形の生物群を、わかりやすく展開しています。

さらには、どの展示の場面でも、ひとりで学習できるように、情報の質と量や展示資料などに創意工夫がこらされており、楽しみながら、山形の自然が理解できます。御来館をお待ちします。

自然部門新展示紹介



昭和の初めごろ、大きなヒトデの化石が、村山市櫛山の山の中から発見されました。

ヒトデがはいっていた地層は、新生代新第三紀の海にたい積したものです。海の中にすんでいたヒトデが、陸地から運ばれた土砂にうもれて化石になったものです。その海が、今は、陸地になっているのです。岩石や地層に残された化石などを手がかりにして、大地のおいたちを組みたてることができます。



☒ 山形のなりたち

海底に眠る山形

古生代の前期までは、現在の日本列島の位置するところは、東アジアに広がっていた大陸の一部でしたが、古生代の中ごろから海底に沈みました。山形県にはこの海でたい積した地層がわずかに分布していますが、熱や圧力を受け、片麻岩、結晶片岩、結晶質石灰岩(大理石)などの変成岩になっているものもあります。



海底から陸へ

古生代後期の造山運動によって、日本列島のほとんどが陸地となり、海は、太平洋側に後退しました。中生代後期になると、陸地の地下深いところに、花コウ岩マグマが貫入するはげしい地かく変動がありました。

田川地方の陸地では、火山活動があったことも確認されています。

ふたたび海底へ

中生代後期からの陸地は、新生代古第三紀まで続きましたが、新生代新第三紀のはじめに、日本列島は沈降し、東北裏日本は、海底に沈みました。この海には、海底火山がさかんに噴火し、噴出物や溶岩がたい積して緑色凝灰岩となりました。この火山活動にともなって、黒鉱鉱床ができたのです。



静かな海の底で

海底火山の活動があった後も東北裏日本は沈降し、海はおだやかになりました。海には、いろいろな生物がすんでいたことが、この時代にたい積した地層から、化石となって産することからわかります。石油のもとになった微生物もこの海にすんでいました。化石の種類から、当時の環境が推定できます。



海から湖沼へ

中新世の末から、鮮新世にかけて、静かな海は、造山運動で陸地となり、海は退きました。山形県の一部は、湾や入江となり、内陸にはしだいに湖や沼ができました。陸地に繁った植物が、亜炭の原料になりました。中新世後期にも、火山活動があったことが、地層の分布、地層の重なり方から推定できます。



くりかえす氷期・火をふく山々

第四紀は、新第三紀末からの造山運動で陸地が広くなりました。氷河におおわれて海面がさがり、日本列島は大陸との陸つづきになったこともあります。

山形県でも発見されたナウマン象の骨の化石が、それをものごたります。陸地では、蔵王や月山などの火山が爆発しました。そして山形にも人が住むようになったのです。

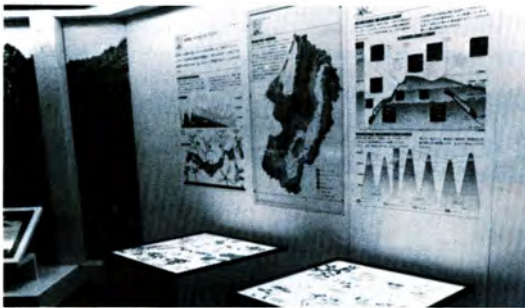


自然界の動物や植物は、互いに競いあい、助けあって生きています。この目に見えない生物の相互関係を、ひとつひとつもどき、具体的なテーマをもって展開しています。「森林の科学」では食物による生物相互のつながりや自然のしくみが、また、「植物の世界」、「昆虫の世界」、「野鳥の世界」では、環境とのつながりが理解できます。

☒ 森林の科学

コナラ・ブナ林の動物たち

森林では、目に見えない生物相互のきびしい生存競争が続いています。そのありさまは、自然林のしくみ、動物と植物のつながり、コナラ・ブナ林の動物たちを内容としたジオラマをとおして理解できます。



☒ 植物の世界

植物の分布とひろがり

日本と山形の植物の分布を対比しながら展開し、気温と水平分布、蔵王山の垂直分布、蔵王山と諸高山の垂直分布、山形を北限・南限とする植物など、山形の植物の分布の特徴が理解できます。



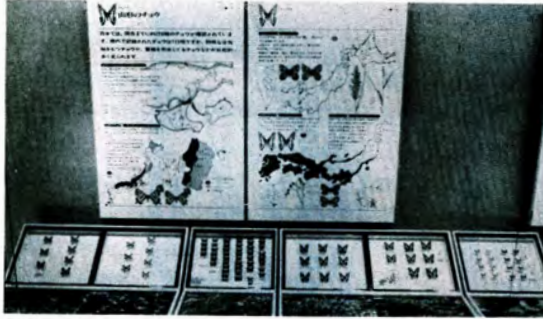
外国からきた植物

県内各地には、雑草として繁茂している200種ほどの帰化植物が知られています。これらの原産地や渡来地、県内への侵入とひろがり、外国種と在来種のすみわけなどが理解できます。



キノコ・山菜・薬草・木材

私たちの生活とのかかわりの深いキノコ・山菜・薬草・木材などを用途別、産地別に分類して展示しています。特に、キノコでは、キノコの生活史、食用キノコ、毒キノコ、冬虫夏草などについて理解できます。



昆虫の世界

山形のチョウ

日本では、現在までに約270種のチョウが確認されています。県内では113種が記録されていますが、そのうち特筆すべきアオスジアゲハ、ギフチョウ属、ベニヒカゲ、チョウセンアカシジミをとりあげており、その分布や食草などについて理解できます。

昆虫のすみかたくらし

これまでに知られている昆虫類は、約80万種といわれています。これらの昆虫はそれぞれの環境に適応して生活しています。

「コナラ林とスギ林の昆虫のすみわけ」や「水辺の昆虫」によって昆虫類のすみかたくらしが理解できます。



野鳥の世界

鳥のすみかたくらし

鳥は、それぞれの生活に最も適した形態をもち、さまざまな環境の中で生活しています。野鳥の生活環境を水辺の鳥・草原の鳥・村里の鳥・山林の鳥・高山の鳥と5つのグループにわけその代表種をそれぞれスポットジオラマとして展示しています。

鳥の渡り

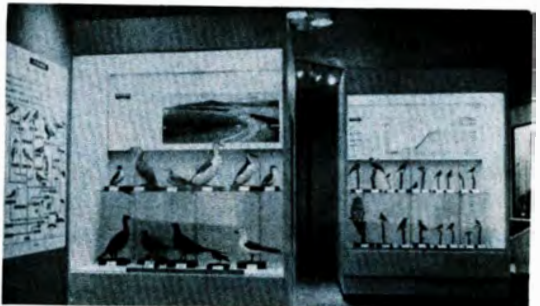
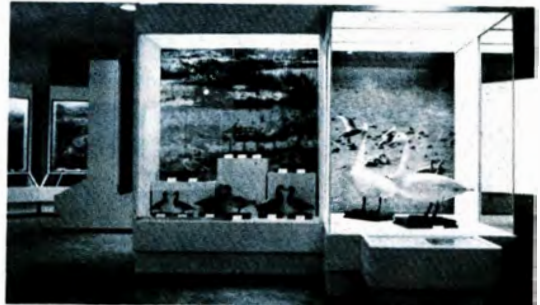
多くの鳥は季節によって生息地を変えます。渡り鳥は、繁殖地と越冬地の間を毎年定まった季節に移動します。

夏に来る鳥・冬に来る鳥をグループにわけ、渡りのコースも図で示してあり、また、県内の白鳥渡来地なども理解できます。

野鳥の研究展示

県内の野鳥の分布については、いろいろな研究発表がありますが、そのなかから飯豊連峰の野鳥、庄内海岸の野鳥の2つをえらんで展示しています。

飯豊連峰の野鳥の垂直分布と庄内の海岸線を中心とした野鳥の分布が理解できます。



自然界の動物や植物は、環境にたくみに適応しながら生きています。この環境と生物の適応の関係を、暖流と生物、雪と生物、トウホクノウサギの体色変化、生物の冬ごし、特殊な分布を示す山形の動物などのテーマをととして、理解できます。



☒ 暖流と雪の山形

暖流と生物

庄内海岸や飛鳥は、日本海を北上する対馬海流（暖流）の影響で、冬でも比較的暖かく、そこには暖地系の動物や植物が数多く見られます。その分布の条件を、海水温度や冬日、真冬日の日数などとの関係で理解できます。

雪と生物

日本列島では、太平洋側と日本海側とで生物のすみわけているのが、多く見られます。それらを、雪による植物のすみわけ、キバナイカリソウとイカリソウのすみわけ、雪に生きる植物、雪にたえる植物などの具体例から、雪と生物の関係が理解できます。



生物の冬ごし

植物も動物も、それぞれいろいろな方法できびしい冬をこしています。

植物のさまざまな冬ごしのしかたを図で示したり、動物の冬ごしの状態を小ジオラマで展示してあり、また冬眠する動物や昆虫の冬ごしなども理解できます。

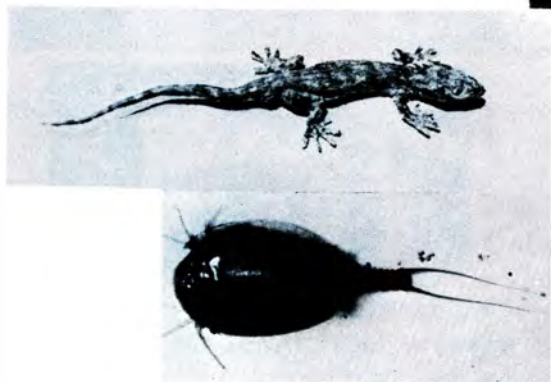
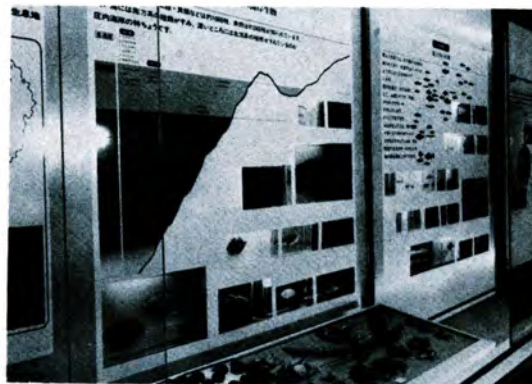


トウホクノウサギの体色変化

トウホクノウサギの体色変化は、気温や周囲の色によるといわれていますが、研究の結果、日照時間の長さによって体色変化がすすんだり、おさえられたりすることが明らかにされました。この新しい成果をとりあげて展示しています。

最上川の魚類・庄内浜の海岸生物

最上川水系では、約70種の淡水魚が知られており、水温のちがいや川のようによってすみ分けています。「最上川の魚類」では流域ごとの魚のすみ分けが理解できます。「庄内浜の海岸生物」では、庄内海岸の魚や貝、海草の垂直分布が理解できます。



特殊な分布を示す山形の動物

酒田市には、熱帯・亜熱帯地方に多く分布するヤモリがすみついています。また県内には生きた化石といわれるカブトエビも生息しています。カブトエビ・ヤモリの国内分布、県内分布などが理解できます。

☒ 心のふるさと 山形



* 催し物展 *

第8回 夏休み学習展

7月8日(土)～8月27日(日)



楽しい夏休みがもうすぐやってきます。山や海にでかけて体をきたえたり、まとまった観察や研究をして、有意義にすごしましょう。

本館では、第8回目の「夏休み学習展」を開催します。この学習展は、夏休みの間に理科や社会科の自由研究をする小中学生のために、「テーマ

のえらび方」、「研究のすすめ方」、「研究のまとめ方」などを、例をあげて展示し、参考にしてもらおうというもので、今年のテーマは次のとおりです。

1. 花と昆虫の関係を調べてみよう。
2. つる植物をかんさつしてみよう。
3. 川原のようすを調べてみよう。
4. 星と太陽と月の動きについて調べてみよう。
5. 城の跡や館の跡について調べてみよう。
6. 町や村の古い道を調べてみよう。

また、期間中に、自由研究相談日を設け、自由研究についての相談と映画の会をもちます。

- ① 7月28日(金) 自由研究のすすめ方
- ② 8月18日(金) 自由研究のまとめ方

この日は、小中学生の入館は無料となります。親子や友達で、ぜひおいでください。

自然と郷土学習教室

この学習教室は、各地の教育委員会および各種団体と連携して開催するもので、郷土の自然や歴史の学習をとおして、自然のしくみを解き明かす科学と、私たちの祖先が築きあげた文化や知恵を学びとり、青少年の健全な育成をはかろうとするものです。

今年は、7月26日(水)に川西町(ダリア公園)と舟形町(西南地区)、8月11日(金)に大石田町(黒滝向川寺)とあわせて3会場で開催します。各会場ともに午前9時から午後1時までで、郷土の動植物や歴史・地理を現地で学習します。

おさそいあわせの上、多数参加下さいますよう御案内いたします。なお、くわしいことについては、本館又は、開催地の町教育委員会社会教育係におたずね下さい。



* 巡回展 *

薬草展



この巡回展は、本館に保管されている数万点の実物資料を、市町村教育委員会の協力をえて公開し、県民の学習に積極的に応えようとするものです。その一環として開催する薬草展は、郷土の自然を見直し、先人の生活の知恵を学びとり、豊かな未来への志向に役立てようとするものです。

本年度は、温海町(8月25日～27日)、長井市(9月8日～10日)で開催します。期間中の行事には、身近な薬草の鑑定会、講演会を予定しています。ぜひご観覧ください。

山形県立博物館ニュース 第44号 ©

昭和53年7月1日発行
山形市霞城町1番8号(〒990)
山形県立博物館 (TEL 45-1111)